

別記  
第1号様式（第14条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

|   |  |
|---|--|
| ( 宛 先 ) 京 都 府 知 事                         | 2年 7月 8日   |
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）<br>大阪府枚方市伊加賀緑町2番2号 | 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）<br>恩地食品株式会社 代表取締役社長 恩地 宏英 |

|  |   |
|--|---|
| 環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称          | 恩地環境推進会議(恩地独自システム)  |
| 適 用 範 囲                                | 京都工場設備全般  |
| 導 入 年 月 日                              | 23年 10月 1日  |
| 認 証 番 号                                |   |
| 基 本 方 針                                | 私たちは生産活動のすべてにおいて「地球に優しい工場」を基本理念として、社員一同地球温暖化問題を重要視し、改善を努めます。  |
| 環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。） | ①CO2排出量 2017年度を基準に原単位（生産数量ベース）で2022年度に総排出量は3%削減、廃棄物（植物性残渣量）1%削減、原単位2%削減を目指す。  |
| 目標を達成するための取組の内容                        | コージェネ設備導入における、電力量削減と重点シートの管理改善、また、生麺工程の廃棄リサイクルの工夫に取り組む。   |
| 目標を達成するための取組の進捗状況                      | コージェネにより電力量に関しては、昨対88%と大きく効果が出た。しかし、その反面ガスコージェネ設備稼働によるガス使用量は増加する。コスト的には大きな貢献があり、投資に関しては評価できた。しかしCO2削減にはならず、来期以降のエネルギーのバランスに注目する。また、廃棄再利用もかなり進めたが、新規等の生産切り替え回数が増加することで、生産時間が増え(2月度の1日増も影響)生産数量は微減であるが、比例して削減にはならなかった。。         |
| 目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価            | 事業活動に伴うCO2排出量は3年間でマイナス1.7%削減したが、目標の2%には届かず、コージェネ設備のガス量増加が大きく、評価対象では0.9%増加する結果となった。生産数量も微減しているが、生産切り替え等の増加で、生産時間が増加し、廃棄も回数に比例微増する。しかし、廃棄のリサイクルの工夫等は来期以降に貢献するとみており、現時点での長年の設備投資や重点目標項目クリアをほぼ達成(115%)したことは、間違いなく進捗してきていると評価に値する。 |
| 事業活動に係る法令の遵守の状況                        | 関連法規の遵守状況について月一回は確認を行っている。これまで違反や行政当局からの指摘等はなかった。   |
| 環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容                | 評価・見直しの必要性については、1年1回検討していきます。28年度はほぼ維持状態だったので、29年度以降も同一システムで推進しながら、重点目標クリアを目指す。   |

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。